

今回は、1年生のFRHオンライン授業についての報告です。

## ◇ 外部講師によるオンライン授業

1年生の今年度の研究テーマは、「企業と考えるSDGs」です。このテーマを深めるにあたり、せき・まちづくりNPO ぶうめらんの北村隆幸様にご協力を依頼しています。そのためオンライン授業においても、6/2(火)、6/9(火)の2週に渡って、外部講師としてお話をいただきました。

オンライン授業のテーマは次の通りです。

外部講師によるオンライン授業

第1回：世界の課題から地域の課題

第2回：SDGsと企業



## ◇ 第1回：世界の課題から地域の課題

今回は、地球規模の課題と地域の課題を、SDGsの視点でどのようにつなげていくのかというお話でした。

まず冒頭で、関高生に知ってもらいたいこととして、「SDGsと地域の課題にはつながりがある」こと、「このまち(関市)に面白い人、面白い企業がある」のだということをお話いただきました。

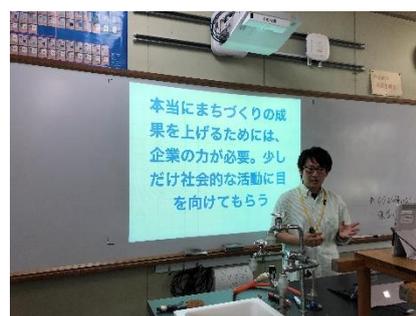
続いて、地球規模の大きな課題として「南北問題」「環境問題」などが取り上げられました。これらを解決するための手段として、食料廃棄を減らすこと、フェアトレードや地産地消などの持続可能な公共調達を目指すこと、ユニバーサル・ヘルス・ガバレッジ(UHC)を目指すことなどが挙げられました。追いつき型近代化の終焉を迎えた現代は、答えのない時代に突入しています。

こうした地球規模の課題解決が求められる一方で、日本にも、SDGsと関わるさまざまな課題があります。今回は、子どもの貧困、人口減少と人口構成の変化などについて取り上げられました。

最後に、関市におけるSDGsとつながる課題が紹介されました。関市は毎年、住民へのアンケート調査をもとに、「せきのまちづくり通信簿」を公表しています。ここで近年課題として上がるものが、公共交通、観光、若者の活躍、防犯などだそうです。アンケートにおいて、これらの項目は重要度が高いが、満足度は低くなっています。これに対して、地域住民や地元企業がどのようなアプローチで解決を目指しているかをお話いただきました。

観光については地元企業の企画である、路線バスを利用した板取地域への旅が紹介され、防犯については青パトと地元企業との連携が紹介されました。他にも子どもの学習支援がお寺で行われている事例などを知りました。

SDGsの17の目標だけでなく、169のターゲットを読み解いていくと、これらの課題解決にもSDGsの視点が必要であることがわかります。



## ◇ 第2回：SDGsと企業

第2回は、SDGsと地域とのつながりに焦点が当てられました。企業がなぜSDGsに取り組むのかということや、関市の企業がどのようにSDGsに取り組んでいるかという事例の紹介がされました。

現代の企業には、CSR（企業の社会的責任）を果たすことが求められています。しかし企業が、企業として単体で活動しても、SDGsに関わる課題の解決にはなかなかつながりません。必要なのは、企業、学校、地域住民など、地域に関わるさまざまな団体や人々が、1つの課題に対して、各々の視点で、各々にできる解決のアプローチを行っていくことであるそうです。こうしたアプローチの方法をコレクティブインパクトと呼びます。

コレクティブインパクトとは、2011年に提案された方法で、個別アプローチにするだけでは解決できなかった社会的課題を解決する新たな試みです。地域の課題解決について言えば、企業、学校、地域住民やNPOなどが互いを強化し合い連携する方法で課題にアプローチすることで、地域の小さな課題の解決を目指します。

このように、企業も地域の一員として社会的課題の解決に取り組むことが求められていますが、こうした活動は企業にどんなメリットをもたらすのでしょうか。企業が得られるメリットとしては、「顧客へのブランディング」が紹介されました。現代の顧客は、商品の価格や内容だけでなく、企業が社会的な課題にどう向き合うのかというその姿勢も評価しているということです。

また、現代は「『つながり』が利潤を生む時代」です。SNSでインフルエンサーと呼ばれる人々が活躍していたり、インフルエンサーとしてフォロワー数が重視される事例からもそれがわかります。

最後に今後の生徒の活動に関わって、せきの未来・社会貢献プロジェクト（通称：みらプロ）の活動紹介もされました。今回の2回のオンライン授業を、今後の個人研究に生かしていきたいです。

